



新設図書館選書配架計画調査報告書

(概要版)

令和8年3月

渋谷区学びとスポーツ部図書館事業課



表紙・裏表紙では、渋谷でくらし・はたらく障がいのある人と、渋谷でまなぶ学生が共に創り上げた文字や絵柄をフォントやパターンとしてデザインしたパブリックデータである「シブヤフォント」を使用しています。

シブヤフォント



調査概要

調査の名称

新設図書館選書配架計画調査

実施概要

1. ワークショップ

インタビューワーク

対象	渋谷区民、國學院大學学生、障がいのある子どもと保護者
期間	令和7年6月～7月（全9回）
参加者数	68人
内容	自己紹介、私が選ぶ図書館に置いて欲しい本2冊、新設図書館に期待すること

コミュニケーションワーク

対象	広尾小学校、常磐松小学校
期間	令和7年10月16日（全2回）
参加者数	54人
内容	①当日着て来た服の色と同色の表紙の本を選び、その本を読んで気になった一文を抜き出す ②児童たちが選んだ好きな本とその中の一文を図書室内にちりばめ、他の児童たちが本と一文の組み合わせを推測する

調査の目的

新しい学校づくり整備方針に基づき建て替えを行う広尾中学校の敷地内に公共図書館を新設するにあたり、新設図書館が地域の方に使いやすく、親しまれる図書館となるよう、図書館づくりの核となる「選書・配架」に焦点を当て、利用者が求めるテーマや読書傾向、学習・調べ物へのニーズなどを整理し、新設図書館における蔵書構成や配架計画の検討に資する基礎資料とすることを目的としました。

2. アンケート

一般アンケート

対象	渋谷区民
期間	令和7年7月15日～8月17日
回答件数	4,597件

児童・生徒アンケート

対象	広尾小学校、加計塚小学校、常磐松小学校、広尾中学校
期間	令和7年10月20日～11月7日
回答件数	557件

調査結果

1. 蔵書について

興味関心の傾向

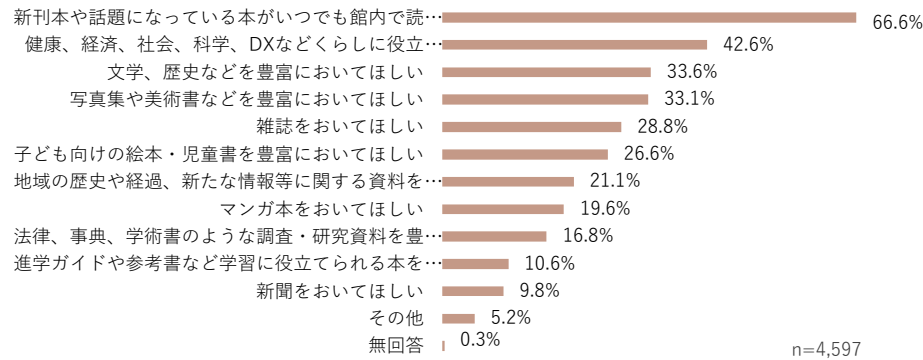
蔵書について、全体として新刊本や話題になっている本がいつでも館内で読めるようにおいてほしいが上位となっており、興味関心のあるテーマとしては、旅行・料理・経済・健康などが上位で、若年層は漫画やサブカルチャー、文化・芸能分野に興味を示す特徴が見られました。

本選びの重視点

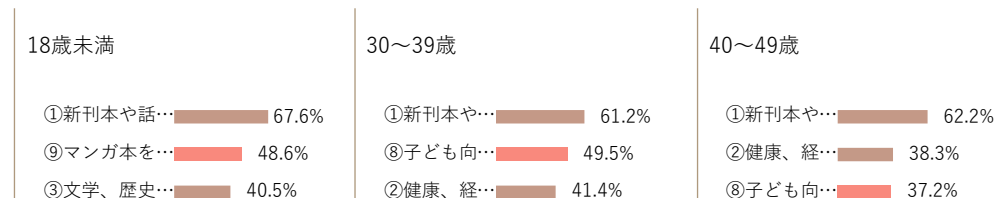
18～69歳は好きなジャンルや著者を重視し、18歳未満はあらすじや試し読み、70歳以上は口コミ評価を重視する傾向が見られました。読書頻度が高い層は好きな著者など普段からの好みを重視し、読書頻度が低い層は学習や資格関連など、実用ニーズとの結びつきを重視しています。

① 図書館にどんな本があると良いか

一般アンケート

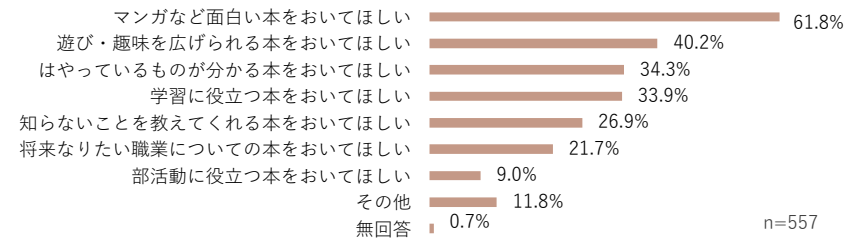


【一般アンケート】年代別の特徴



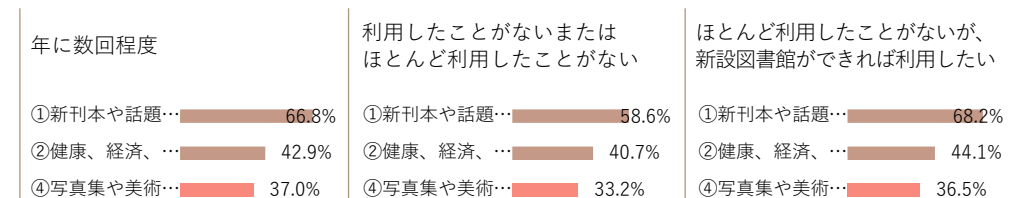
18歳未満では、「マンガ本をおいてほしい」が2番目にあげられました。30～39歳では2番目に、40～49歳では3番目に「子ども向けの絵本・児童書を豊富においてほしい」があげられました。

児童・生徒アンケート



「マンガなど面白い本をおいてほしい」、次いで「遊び・趣味を広げられる本をおいてほしい」となっています。

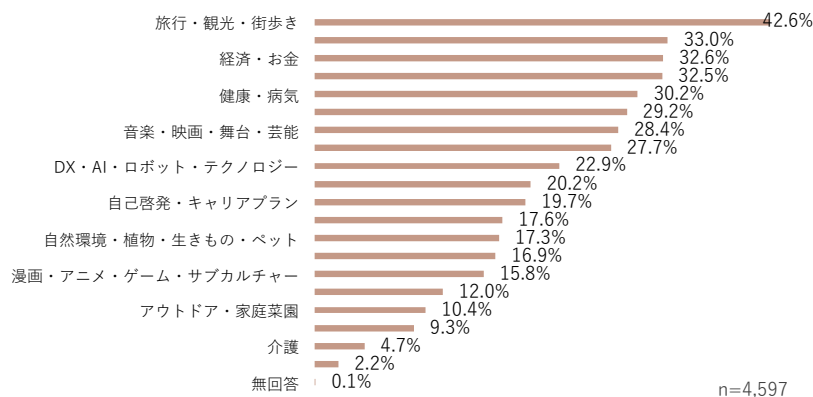
【一般アンケート】図書館利用頻度別の特徴



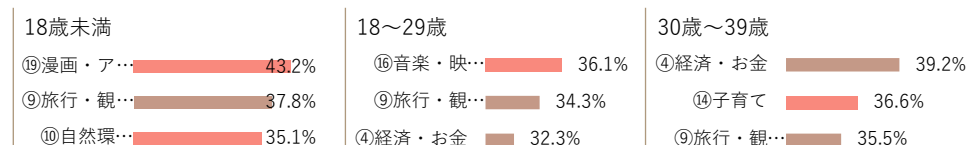
利用頻度の高い層に比べて利用頻度の低い層では、「写真集や美術書などを豊富においてほしい」の割合が高く、上位に入っています。

②興味のあること、気になっていること

一般アンケート

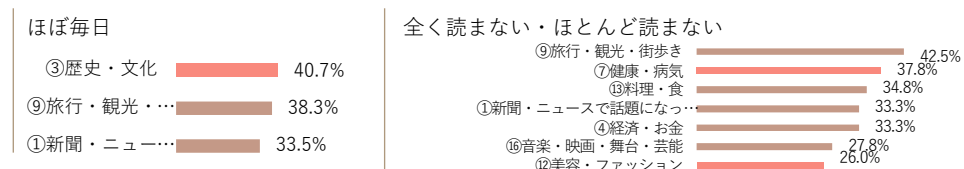


【一般アンケート】年代別の特徴



18歳未満は、「漫画・アニメ・ゲーム・サブカルチャー」「自然環境・植物・生きもの・ペット」が上位に、18歳～29歳では「音楽・映画・舞台・芸能」などの文化・芸能分野の割合が高い傾向にあります。30歳～39歳では、「子育て」が上位でした。

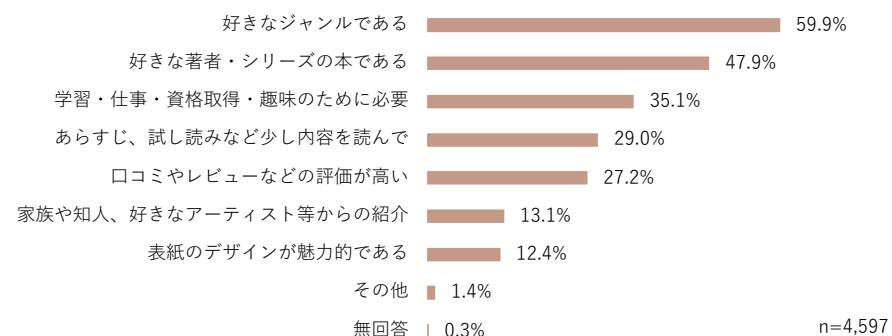
【一般アンケート】読書頻度別の特徴



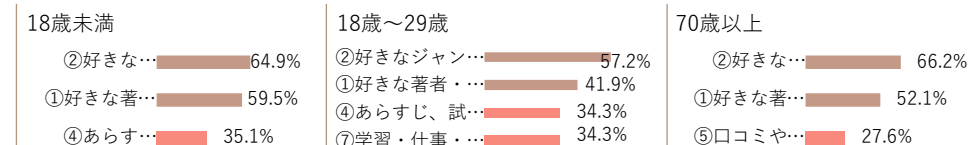
ほぼ毎日読書する層では、「歴史・文化」は最も割合が高く、全く読まない・ほとんど読まない層では、他の読書頻度層と比べて「健康・病気」や「美容・ファッション」など自己管理や身近なテーマの割合が相対的に高いという特徴が見られました。

③本を選ぶときに重視すること

一般アンケート

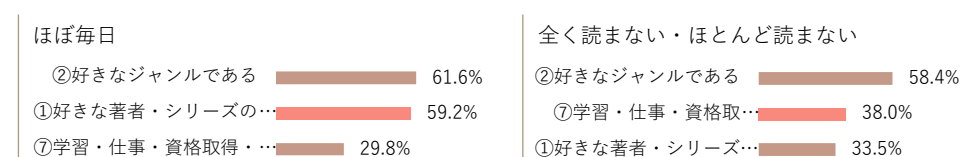


【一般アンケート】年代別の特徴



18歳から69歳までは、「好きなジャンル」、「好きな著者・シリーズの本」、「学習・仕事・資格取得・趣味のために必要」が上位となりました。29歳以下では、「あらすじ・試し読みなど少し内容を読んで」が3番目となり、70歳以上では、「口コミやレビューなどの評価が高い」が3番目となりました。

【一般アンケート】読書頻度別の特徴



読書頻度が高い層では、「好きな著者・シリーズの本である」の割合が相対的に高く、「全く読まない・ほとんど読まない」層では、他の層に比べて「学習・仕事・資格取得・趣味のために必要」の割合が高いという特徴が見られました。

インタビューワーク

「こんな本が渋谷区の図書館にあったらいいな、を2冊選ぶ」において、本を選ぶときに重視された意見は以下の分類となりました。



- 01：哲学・歴史・文化・自然・戦争・言語など視野を広げ、学びにつながる幅広いテーマの本を子どもたちに読んでほしい。
- 02：関心がある分野の本を何度も読み重ねられるように図書館においてほしい。
- 03：名作、絶版になった本、読み継がれてきた本を保存してほしい。
- 04：アートブック、写真集、漫画、詩集など芸術的・感性的な本に出会いたい。
- 05：家に置けない大きな本や、高価な本など個人で所有できない本を図書館で読みたい。
- 06：自分では見つけられない分野や著者、珍しいテーマの本に出会いたい。
- 07：表紙や装丁、タイトルで思わず本棚から手に取りたくなる本があってほしい。
- 08：世代を問わず絵本を楽しみたい。

コミュニケーションワーク

児童がどのようにすれば本を魅力的に感じるかを探るため、身につけている色と同じ色の本を探したり、気になる・伝えたい一文を抜き出したりするコミュニケーションワークを行い、以下のきっかけや働きかけがあると効果的であると整理しました。



- 01：「自分が着ている服の色と同じ色の本を選ぶ」ことで、普段手に取らない本もどんな本なのか興味をもって読み進めていた。
- 02：「読んだことのある本の中で、気になった一文を紹介し合う」ことで、より深い読書体験が生まれた。
- 03：01・02について、その場で紹介し合い、内容や意見を共有することで、人と本とをつなぐきっかけとなった。

※セレンディピティが起こる余白とは、図書館で特定の本を探すだけでなく、棚を眺めながら興味のなかった分野の本と出会うことや、偶然隣に座った人との会話から新しい知識や興味が広がるような状況です。

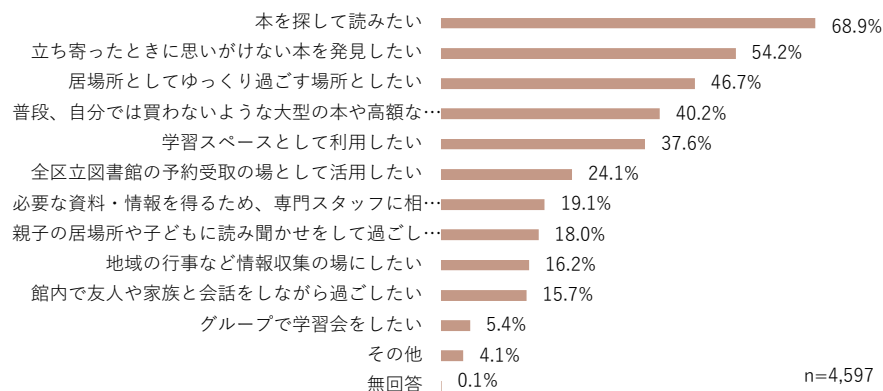
2. 図書館の使い方・配架について

図書館の利用目的

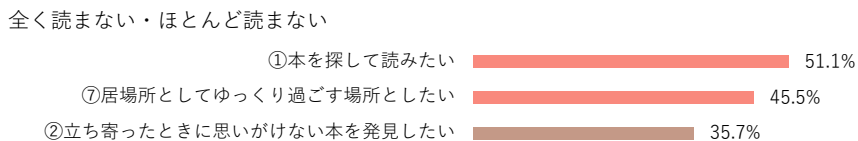
全体として、本を探して読みたい、思いがけない本を発見したい、居場所としてゆっくり過ごす場所としたい、などと単に本を受け取る施設ではなく図書館内での利用希望が多く見られました。また、若年層では学習スペースとしての利用、小・中学生では自由に過ごす場所としての利用を希望する声も多数あがりました。

①図書館をどのように使いたいか

一般アンケート



【一般アンケート】読書頻度別の特徴



全く読まない・ほとんど読まない層では、「本を探して読みたい」が最も割合が高く、2番目に「居場所としてゆっくり過ごす場所としたい」があげられました。

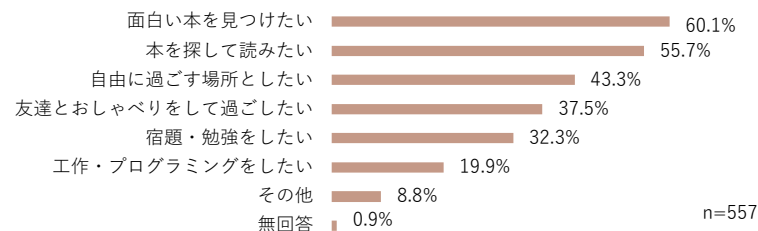
本の配架方法

全体として表紙を見て選びたい傾向がありますが、30代以上では渋谷区内の図書館全体の蔵書が確認できるデジタル書架などの利用も多く望まれています。また、70歳以上では背表紙の文字情報の中から本を選びたいが上位でした。

サービス

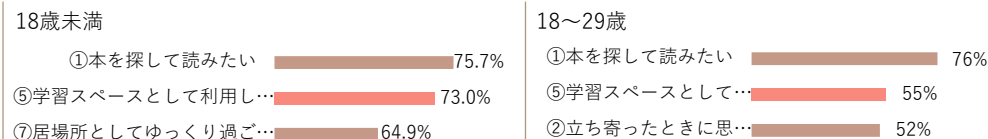
図書館スタッフへの期待として、小学生は本の場所を教えてほしい、中学生は面白い本やおすすめ本の紹介を望む声が多く見られました。

児童・生徒アンケート



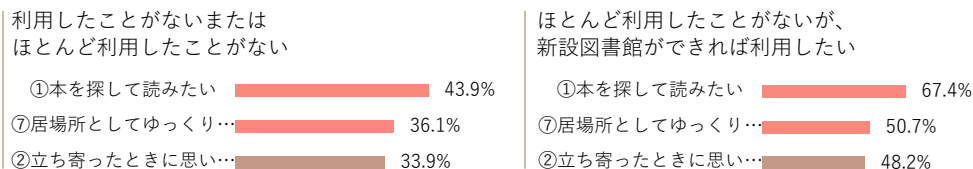
全体では「面白い本を見つけたい」が上位ですが、小学6年生、中学1年生、中学3年生では「自由に過ごす場所としたい」が最も多い回答でした。

【一般アンケート】年代別の特徴



29歳以下では「学習スペースとして利用したい」が他の年代に比べ割合が高いという特徴がありました。

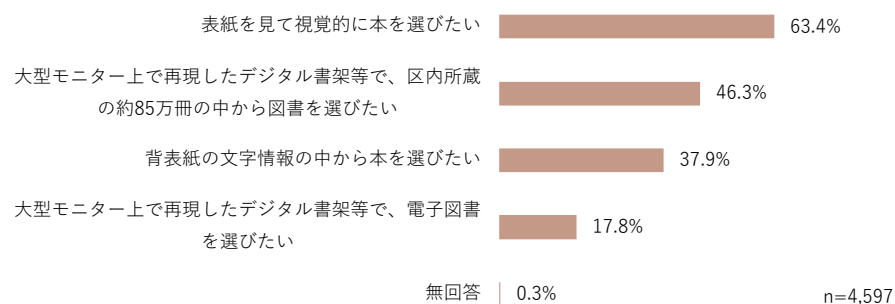
【一般アンケート】図書館利用頻度別の特徴



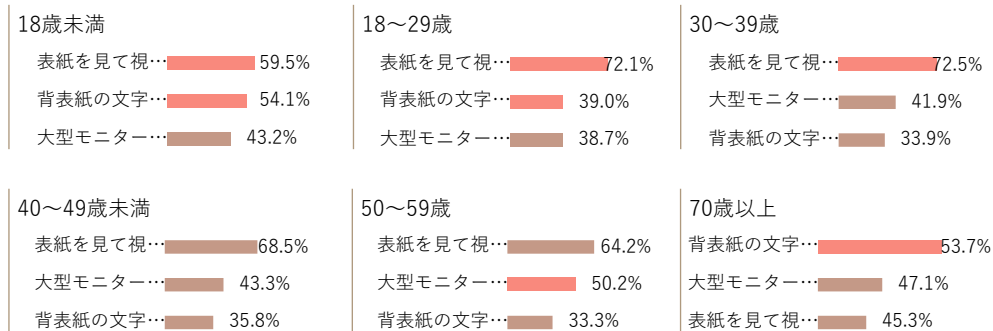
利用頻度が低い層では、「本を探して読みたい」が最も割合が高く、2番目に「居場所としてゆっくり過ごす場所としたい」があげられました。

②本の配架について

一般アンケート



【一般アンケート】年代別の特徴



29歳以下では「表紙を見て視覚的に選びたい」に次いで、「背表紙の文字情報の中から本を選びたい」が高くなっています。対して30歳以上では、「大型モニター上のデジタル書架等で図書を選びたい」が2番目に高い結果となりました。また、70歳以上では、「背表紙の文字情報の中から本を選びたい」が最も高い結果となりました。

【一般アンケート】図書館利用頻度別の特徴

利用頻度が高い層と低い層のいずれも、全体の回答と同様の結果となりました。

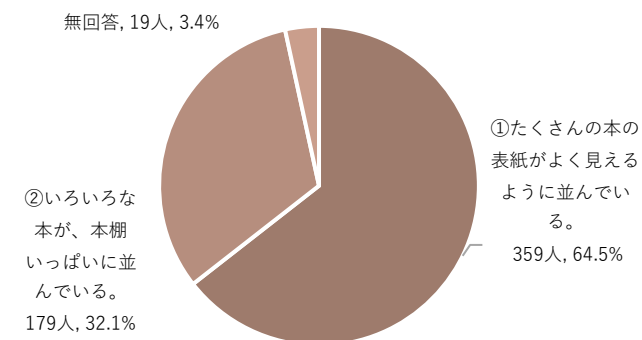
児童・生徒アンケート



①たくさんの本の表紙がよく見えるように並んでいる

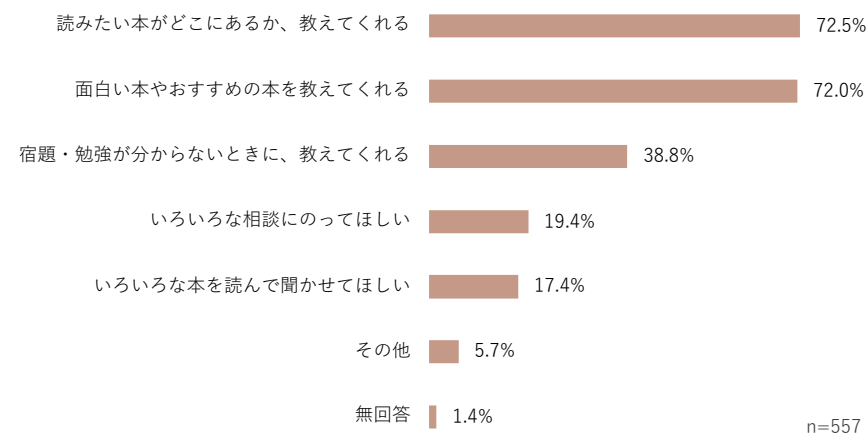


②いろいろな本が、本棚いっぱい並んでいる



小・中学生においても、「たくさんの本の表紙がよく見えるように並んでいる」の割合が高くなっています。

新しい図書館のスタッフにどんなことを希望しますか。



小学生では、「読みたい本がどこにあるか、教えてくれる」が上位に入り、中学生では、「面白い本やおすすめの本を教えてくれる」が上位となりました。

3. 図書館に期待すること

一般アンケートの新設図書館に並べる本や展示方法について（自由記載）とインタビューワーク、図書館ウェブサイト上の意見フォームで出されたご意見を整理しました。

図書館への総合的期待

新刊・話題本の充実、専門書の充実、偶然の出会いが生まれやすい配架や空間づくり、多様な利用者に対応した設備、コミュニティ機能強化、スタッフの専門性向上、情報提供の効率化が求められています。また、利用者同士や世代間の交流イベントも期待されています。

01 配架方法 表紙を見せる配置、テーマで並べるなど、偶然の出会いを楽しみたい

- 従来の分類別配架にとらわれず、テーマ配架や表紙を見せる陳列など、関心が広がる仕掛けを求める声があります。
- 図書館員によるおすすめコメントや企画展示など、利用者の発見を促す工夫を望む意見も多く寄せられています。
- 図書館内を歩く楽しさや本の探しやすさを向上させる配架方法の重要性が強調されています。
- デザイン性を重視するのではなく実用性のある書架・配架にしてほしいという声もあります。

02 蔵書 新刊本・話題本の充実、幅広いジャンル、専門性の高い本などへの期待

- 新刊・話題本の充実を求める声が圧倒的に多く、人気本の貸出待ちの改善や新刊本の迅速な導入への期待が寄せられています。
- 幅広い分野にわたるバランスの取れた選書を求める意見も多く、特定ジャンルや思想への偏り回避が重視されています。
- 美術・哲学・鉄道など、テーマ性のある専門分野の書籍へのニーズも一定数見られました。

03 空間・設備 長時間滞在しやすい雰囲気づくり、多様な利用ができる空間が良い

- 学習スペースや静かな場所・賑やかな場所のゾーニングなど、用途に応じた空間の切り分けへのニーズが強く見られました。
- 飲食可能エリアや子どもがくつろげるスペースなど、多様な利用者が滞在しやすい設備を望む意見も多く寄せられています。
- 短い時間でもアクセス可能な本と家具の配置、座席数の拡充など、快適な読書環境づくりが求められています。

04 サービス 図書館は、人と本、人と人がつながるコミュニティの場であってほしい

- スタッフへの相談体制や専門的な知識をもつ人材を求める声が多く、利用者を導くサービスの質が重視されていることが分かりました。
- 予約や受取方法の利便性向上、展示内容のオンライン公開、古い資料のデジタル化など、情報提供の効率化を望む意見が目立ちました。
- 「司書がおすすめ本を紹介してくれる機会が欲しい」「利用者同士・世代間の交流イベントを充実させてほしい」といった声があり、図書館を人と本、人と人がつながるコミュニティの場として捉える傾向が見られました。
- 地域との連携やMLA連携※を視野に入れてほしいという声もありました。

※MLA連携とは、博物館（Museum）、図書館（Library）、文書館（Archives）のあいだでおこなわれる種々の連携や協力活動のことです。

その他

- 新設図書館への期待や応援の声が多く、「楽しみにしている」「より良い場になることを願う」といった前向きなコメントが中心で見られました。一方で、運営や利用環境に対して“より配慮を求める意見”も見られ、快適や安全性を損なわない運営への関心が示されています。
- こうした期待と配慮の双方を背景に、地域にふさわしい図書館づくりへ丁寧な取り組みを望む声が寄せられています。

あらゆる世代が学び続けられる学習の推進に向けて

誰もが立ち寄りたくなる図書館へ

本調査では、5,000人を超える区民の方にアンケート等へご協力いただき、100人以上の方々にワークショップにご参加いただきました。その結果、本との出会いの可能性を探るなど様々な角度からニーズを把握でき、多くの区民が図書館に関心を持ち、期待を寄せていることが明らかになっています。

1 蔵書について

蔵書については、「新刊本や話題になっている本がいつでも館内で読めるようにおいてほしい」「くらしに役立つ本」という回答が多く、小中学生からは「マンガなど面白い本をおいてほしい」「遊びや趣味を広げられる本」という回答が多くありました。その他にも年代別や図書館利用頻度、読書頻度別に集計をしましたので、少ない回答にも着目しご意見を反映できるように選書の工夫をしていきます。

2 図書館の使い方・配架について

図書館の使い方に対して、「本を探して読みたい」「思いがけない本を発見したい」、小中学生では、「面白い本を見つけたい」「本を探して読みたい」が多い回答でしたが、次いで「居場所としてゆっくり過ごす場所としたい」、小中学生では「自由に過ごす場所としたい」が多い回答であり、「居場所」というコンセプトを重視する必要があります。

本の配架については、多くの方が「表紙を見て視覚的に本を選びたい」と回答していましたが、次いで「大型モニター上のデジタル書架等で図書を選びたい」が多く、できるだけ多くの本の中から本を選べるような工夫が求められています。また、「背表紙の文字情報の中から本を選びたい」という方の回答にも注目し、面陳列との両立を目指す必要があります。

3 図書館への期待について

図書館への期待として、スタッフへの要望、予約・受取方法についてシステムの利便性向上、展示内容のオンライン公開など情報提供のあり方、図書館での地域交流など幅広いご意見をいただいています。サービスの工夫で図書館をより親しみのある施設にする必要があります。

4 新設図書館運営方針策定に向けて

新たに広尾中学校敷地内に設置される図書館の建築デザインは、館内を囲うように並ぶ書架や、スロープでゆるやかにつながる書架が特徴であり、本との出会い方を楽しめる設計となっています。地域の情報やコミュニティの拠点として、誰もが気軽に立ち寄りたくなる図書館を目指し、本調査結果を踏まえた運営方針の策定を進めていきます。

新設図書館選書配架計画調査報告書（概要版）

発行 渋谷区学びとスポーツ部図書館事業課（中央図書館）

〒150-0001 東京都渋谷区神宮前1丁目4-1



